

岩美病院

だ よ い

2011 3・4



～特集～

花粉症の初期療法～花粉症で眼がかゆくなる人へ～

新入職員紹介

院内研究発表について

花粉症で眼がかゆくなる人へ 花粉症の時期をすごしやすくする ～初期療法～

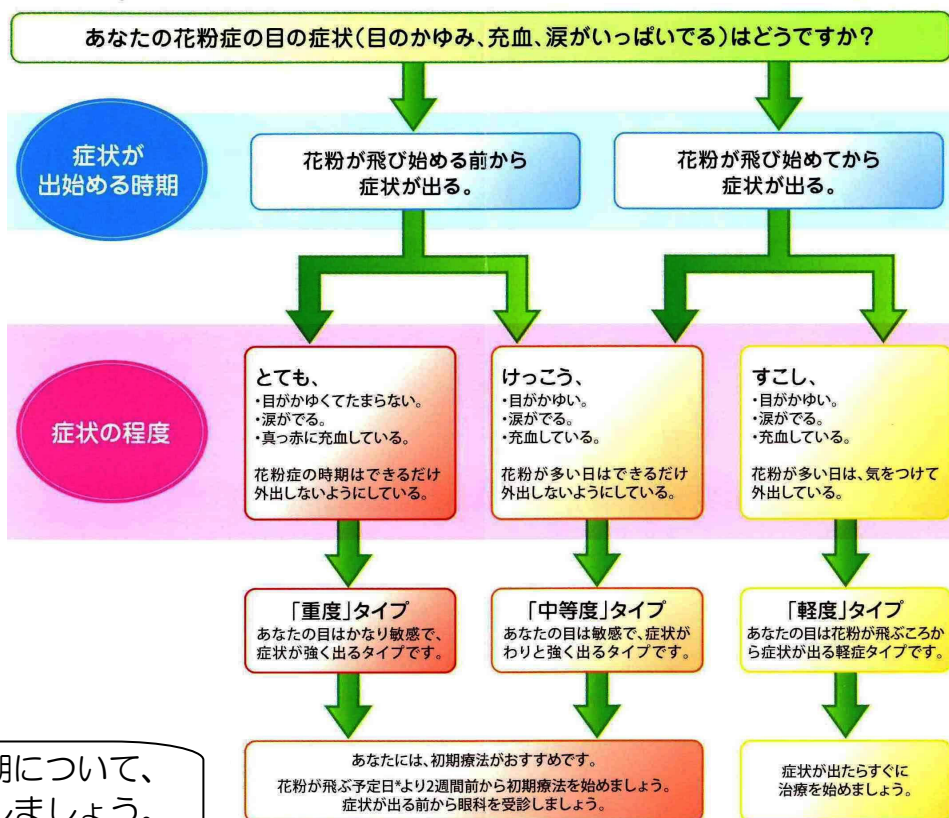
初期療法とは、花粉が飛び始める前や症状が少しでも現れた時点から、治療を開始し、花粉症状を軽くする方法です。いわば、あらかじめ先手を打って花粉症に備える治療方法です。

○初期療法をしておくこと・・・



○いつから初期療法を始めればいいのか？

いつもの花粉症の症状からあなたに合った初期療法を探しましょう。



初期療法の治療や時期について、詳しくは医師に相談しましょう。

○点眼薬による初期療法

初期療法の1つである「点眼薬による初期療法」をご紹介します。
初期療法に使われる主な点眼薬は、抗アレルギー点眼薬と呼ばれています。
抗アレルギー点眼薬には2種類あり、それぞれ効果が異なりますので医師
と相談の上、処方してもらいましょう。

- ・メディエーター遊離抑制薬

眼のかゆみや充血、涙がいっぱい出るといった症状を引き起こす、主な原因物質「ヒスタミン」が、マスト細胞（アレルギー反応を引き起こす細胞）から放出しないようにするお薬です。

- ・ヒスタミンH₁受容体拮抗薬

「ヒスタミン」がマスト細胞から出てしまっても、ヒスタミンが神経や血管にあるヒスタミンの受容体（ヒスタミンの受け皿）にくっつかないようにするお薬です。

また、1剤で両方の働きをする点眼薬もあります。
点眼薬は医師に指示された用法・点眼方法に必ず従ってください。点眼後に何か異常を感じたときは、すぐに医師または薬剤師にご相談ください。



～ちなみに～

花粉飛散開始日は1 cm³あたりの花粉数が連続して1個以上になった初日（花粉症環境保健マニュアル2009より）と定義されています。

飛散開始日はお住まいの地域によって異なりますので、地域の花粉飛散情報に注意しましょう。



参考文献：「花粉症だけど・・・今年は外で思いっきり春を満喫したいあなたへ！」
日本アルコン株式会社配布
監修：高知大学医学部眼科学講座 教授 福島敦樹先生

2月から岩美病院で働く3名の職員を紹介します

こんにちは。2月から岩美病院2階病棟で働かせていただいています、大竹 身佳と申します。看護師を始めて2年目のまだまだ新人です。岩美病院で働き始めてからは3週間目になりますが、緊張の毎日です。でも、周りの方々が本当に良い人ばかりで、大変な中でも楽しく仕事をさせてもらっています。病棟は忙しいながらも笑顔であふれ、とっても素敵な病院だと思いました。私も患者様、ご家族の方々に笑顔を届けられるような看護師になりたいと思います。そして、日々勉学に励み、スタッフの一員として働ける日が一日でも早く来るよう頑張りたいと思っています。ちなみに趣味は、車の運転や音楽を聴いたり歌ったりすることです。保育園の頃から約10年間ピアノを習っていました。また、中学・高校と吹奏楽部に所属していました。夢はピアノを置ける家に住むことです。人見知りせず、誰とでも友達になれることが特技かなあと考えています。こんな私ですが皆さんどうぞよろしくお願ひします。



この度、2階病棟に勤務させて頂く事になりました山口 和美と申します。数年前に息子がお世話になった際、看護師さんの親切な対応にありがたく思いました。今度は私本人が患者さんと接することになり息子がして頂いた様に患者様に対して親切な対応を心がけたいと思います。どうぞよろしくお願ひします。

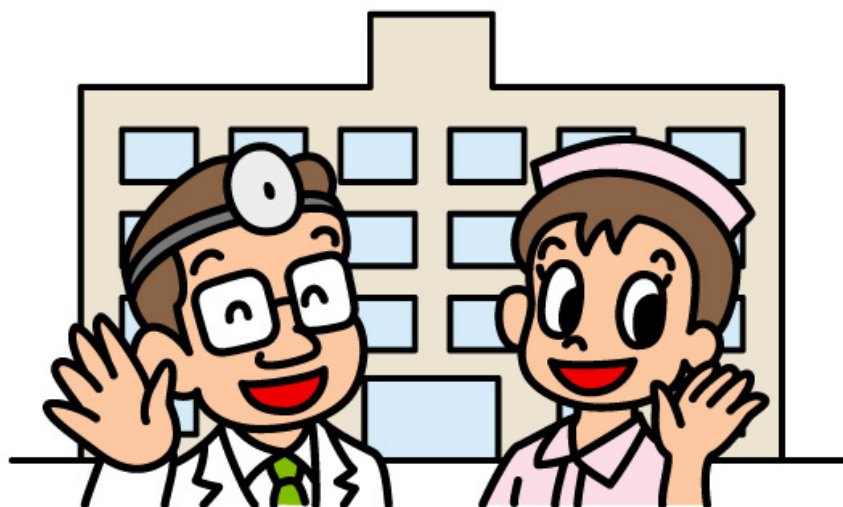




こんにちは。2月1日に入職しました、
林 伸嘉です。日々、先輩方や患者様に
たくさんの事を教えて頂きながら一人前の
看護助手を目指して頑張っています。
そんな看護職1年生の私が第一に心がけて
いることは<健康管理>です。
その一環として、体力作りのため自宅周辺を
ジョギングしています
(最近サボり気味ですが・・・)。
今年こそフルマラソンに挑戦したいと思っていま
温泉やサウナに行くことも大好きです。
日頃の疲れがとれリラックスでき、ストレスも軽減できるので、
できれば毎日行きたい程です。
毎日緊張の連続で、先輩方・患者様にご迷惑をお掛けしていると思いま
すが、一日も早く独り立ち出来る様頑張ってまいりますので、宜しくお願
い致します。
患者様からの感謝の言葉や笑顔に元気を頂いています。



よろしくお願ひします。



院内研究発表会について

岩美病院は職員憲章のひとつとして「私たちは、常に専門知識と技術の向上に努めるとともに、明日の病院を担う後進の育成をはかり、ともに学びます」という一文を掲げています。

その実践の一つとして年に1回、病院内で研究発表会を行っています。部署間の連携をスムーズにしたり、医療の質の向上を図ることが目的です。今回は3月3日に行われ、日勤業務終了後の大会議室は立ち見が出るほどの参加人数で、発表に対する関心の高さがうかがわれました。以下に発表の概要を掲載します。

「看護必要度の評価方法と考え方」（2階病棟）



平成23年2月1日より「看護必要度」評価を実施している。今回、看護スタッフに対して、適切な「看護必要度」評価を行うための研修が早急に必要であり、そのための資料作成に取り組んだ。

「看護必要度」評価の理解、その実際と考え方、テキスト等を作成する過程において当院の看護業務に占める介護の比率の高さと共に看護補助者の重要性、また互いに

研修を重ね、協力する事がより良い患者サービスの提供につながると考えたのでそれを報告した。

「腸ろう栄養から完全経口摂取に移行した症例を通して」

（3階病棟）



近年、嚥下障害のある患者様に胃ろうや腸ろうなど経管栄養で生命を維持している患者様は増加傾向にあり、ひとたび経管栄養を開始するとほとんどの方が、ほぼ一生続けなければならなくなるのが現状である。

今回、3階病棟では、脳梗塞後遺症による嚥下障害と、突然の肉親の死によるショックから経口摂取できなくなり、腸ろう造設した患者様が、あるきっかけによって、序々に食べられるようになり、経口摂取に完全移行できただけでなく、

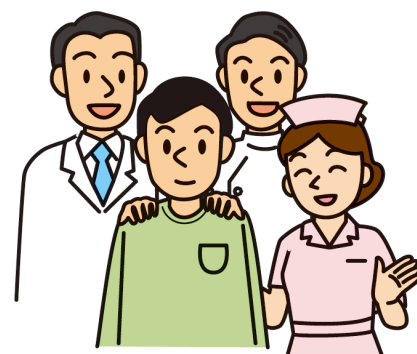
リハビリも進み劇的にADLの向上がみられた症例を検証し報告した。

「岩美病院御利用者様アンケート（外来編）」

集計結果について」（サービス向上委員会）

サービス向上委員会では、昨年8月に実施した「岩美病院御利用者様アンケート（外来編）」の集計結果を報告します。

このアンケートは岩美病院を利用される患者様・付き添いの方を対象として患者様からご意見をお聞きすることで、今後のお客様への接遇とサービスの向上を図り、より良いサービスの提供ができるよう実施しました。



＊実施期間：平成22年8月23日（月）～27日（金）
午前9時～午前11時まで

＊実施場所：外来診察 ひまわりホール周辺

＊対象者：岩美病院を受診された患者様及び付き添いのご家族

＊回収枚数：298人

（実施期間中の外来患者の総数は1,258人で回収率は23.6%）

今回のアンケートは平成18年に実施してから4年目となり、前回と比較するために同じ質問項目にした結果、すべての項目で平成18年に実施したアンケート結果より「よい」と答えた方が15～20%程度減っている。その分、「ふつう」と答えられた方の数が増えている。この数字だけを見ると職員の接遇・サービスが後退しているような印象を受けるが、周りの病院が同じように患者様への接遇、サービスを提供していることで患者様が馴れてしまい、それ以上のサービスを提供していかなければ良いとの評価を得られないように感じられた。更なる患者満足度を目指した接遇・サービスの向上が求められていることが、今回のアンケート調査結果で理解する。

今以上のサービス向上を図っていくには現状に甘んじることなく、職員ひとり一人が患者様の立場に立った接遇・サービスの向上が求められていることを強く感じた。



編集後記

まだ寒いこの季節ですが、雪も減りそろそろ本格的に花粉の飛散が始まろうとしています。私はいつも花粉症に悩まされているので今回ご紹介した初期療法を実践してみようと思います。皆様も花粉症対策として参考にされてはいかがでしょうか。

2月より3名の新職員が2F 病棟に配属になりました。慣れるまでご迷惑をかけることがあるかもしれませんが、温かい目で見守っていただけるとありがたいです。

(大西、堀村、宮階、保本、広富)

